

審議会等会議録

（順不同・敬称略）

会議の名称	令和 3 年度第 2 回加須市高齢者相談センター運営委員会及び地域密着型サービス運営委員会
開催日時	令和 4 年 1 月 2 8 日（金）午後 2 時から午後 3 時 4 0 分まで
開催場所	加須市役所 5 階 5 0 4 会議室
委員長氏名	野呂牧人
出席委員	上野晴美、野呂牧人、瀬々正行、金子章一、山崎繁雄、長谷川雅之、吉澤君子、佐藤政代、中田恵久子
欠席委員	曾宮滝夫
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）高齢者相談センター運営委員会 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 令和 4 年度高齢者相談センター運営方針（案）について</li> <li>② 令和 4 年度高齢者相談センター事業計画及び収支予算（案）について</li> </ol> </li> <li>（2）地域密着型サービス運営委員会 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域密着型サービスの事業に関する基準の一部改正（案）について</li> <li>② 第 4 次加須市高齢者支援計画の一部変更（案）について</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>
会議資料の名称	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和 3 年度第 2 回加須市高齢者相談センター運営委員会及び地域密着型サービス運営委員会次第</li> <li>2 加須市高齢者相談センター運営方針（案）（資料 1）</li> <li>3 加須市高齢者相談センター運営方針（案）【新旧対照表】（資料 2）</li> <li>4 令和 4 年度高齢者相談センター事業計画（案）【重点取組事項】（資料 3）</li> <li>5 令和 4 年度高齢者相談センター事業計画（案）【計画（目標）値】（資料 4）</li> <li>6 令和 4 年度高齢者相談センター運営委託事業予算（案）の概要（資料 5）</li> <li>7 地域密着型サービスの事業に関する基準の一部改正（案）につ</li> </ol>

	<p>いて（資料６）</p> <p>８ 第４次加須市高齢者支援計画の一部変更（案）について（資料７）</p> <p>９ 第４次加須市高齢者支援計画【新旧対照表】（資料８）</p>
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	０人
事務局職員等 職・氏名	<p>福祉部長 齋藤一夫、福祉部高齢介護課長 山岸弘通、 同課主幹 斉藤将宏、同課主査 米村至、萩原宏和、 騎西総合支所市民福祉健康課長 斉藤千恵美、 北川辺総合支所市民福祉健康課長 相良格、 大利根総合支所市民福祉健康課長 飯野伸康、 加須・大桑・水深高齢者相談センター愛泉苑 太野貴宏、 不動岡・礼羽・志多見高齢者相談センターみずほの里 中村未央、 三俣・樋遣川・大越高齢者相談センター利根いこいの里 橋本将来、 騎西高齢者相談センター多賀谷寿光園 田崎博己、 北川辺高齢者相談センター加須清輝苑 田沼佐知子、 大利根高齢者相談センターふれ愛の郷 小野寺俊</p>
説明者の職・氏名	<p>福祉部長 齋藤一夫、福祉部高齢介護課長 山岸弘通、 同課主幹 斉藤将宏、同課主査 米村至、萩原宏和、 加須・大桑・水深高齢者相談センター愛泉苑 太野貴宏、 不動岡・礼羽・志多見高齢者相談センターみずほの里 中村未央、 三俣・樋遣川・大越高齢者相談センター利根いこいの里 橋本将来、 騎西高齢者相談センター多賀谷寿光園 田崎博己、 北川辺高齢者相談センター加須清輝苑 田沼佐知子、 大利根高齢者相談センターふれ愛の郷 小野寺俊</p>
会議録の作成方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 要点記録</p> <p><input type="checkbox"/> 全文記録</p>
その他必要な事項	なし

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
<p>事務局</p> <p>野呂委員長</p> <p>大橋市長</p>	<p><b>1 開会</b> (開会)</p> <p><b>2－1 委員長あいさつ</b></p> <p>お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>全国的にコロナの感染拡大が広がっている中、実際に地域では、在宅等でケアに当たっていただいているエッセンシャルワーカーの人たちを含めて、厳しい状況の中でサービスを提供しているという実態があります。</p> <p>今日予定されている議事の中にもありますが、多問題を抱えている人たちが大勢いらっしゃる、それは子供のことだったり、障害のことだったり、高齢者のことだったりと様々なことがあります。それを横断的に支える必要があって、そこに高齢者相談センターが関わる役割は、今後ますます大きくなっていくだろうと感じています。</p> <p>今日は、令和 4 年度の事業計画等についてご議論いただくわけですが、限られた時間の中でポイントを絞って、皆さんから色々のご意見を伺いながら、次年度の事業計画等に反映できればと思っております。ぜひ、次年度の計画、それから先のことを見据えて、前向きなご意見を頂ければと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。</p> <p><b>2－2 市長あいさつ</b></p> <p>皆さんこんにちは。市長の大橋でございます。</p> <p>本日は、本年度 2 回目の高齢者相談センター及び地域密着型サービス運営委員会の開催のご案内を申し上げましたところ、野呂委員長さんをはじめ、委員の皆さん方には大変お忙しい中、またコロナ禍にもかかわらずご出席いただき、ありがとうございます。皆さん方には、加須市の高齢者施策の展開のために、それぞれの立場でご尽力いただいておりますことに心から厚くお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>まず本題に入ります前に、今、加須市政における、あるいは市民の皆さん方の生活における最大の課題であるコロナ関係について少しだけお話をさせていただきます。</p> <p>まずコロナについては、ウイルスがどんどん変異していくという今までにない感染症だということでもあります。したがって、その状況を科学的に把握しながら、国が先頭に立って対策を進めていくということですが、国や県だけでは当然駄目で、現場を預かっている市町村が一体となって進めることが重要だと思っております。</p> <p>市も、国や県の考え方に沿いながら、加須市は加須市としての独自の状況を反映させて対策を講じているところでございます。</p>

特にワクチン接種については、医師会のご協力を頂いて、2回接種については90%を超えております。まだ1・2回目の接種をされている方もいますし、ワクチンが打てない体質の方など特別な事情がある方を除くと、実質的には100%に近づくのではないかなと思っております。

ただ残念ながら、2回接種しても抗体がだんだん弱くなってくることが科学的に言われておりまして、最近の保健所から頂く資料では、毎日20人、30人陽性者が出ているうちの半数、あるいはそれ以上かもしれません、2回接種したけれども、という方が多くなってきました。

そこで今、国を挙げて3回目の接種をしようということをお願いしております。科学的にも、3回接種すると確実にまた効果が上がるということが実証されているという報道もありますので、我々としては、何はともあれ3回目の接種をお願いしたいということでPRをさせていただいております。

ワクチンですが、ファイザーとモデルナの2種類ありますが、1・2回目はほとんどファイザーでしたが、3回目はモデルナのほうが多くなるということで、それに対する違和感のようなものがあって、なかなか予約も増えていない状況です。我々も国の情報を得ながら、市民の皆さんにご理解いただいて、感染しない、リスクを負わない状況となるためにも、3回目の接種をお願いしたいと思っております。

特に、高齢者の方はリスクが高いということで、高齢者施設については別枠で、施設単位で3回目の接種を進めております。

一般の方については、今、接種券をどんどんお配りして予約していただくということにしております。お配りする順序は、「2回接種した日から7箇月経過した人」について接種券を送っておりまして、今の段階だと、去年の5月接種の方については全員に送っております。去年の6月末までに接種された方については今週中に全員に送ると。7月に終わった方には2月上旬に配布させていただくと。こういう順番でございますので、もし色々ところで聞かれたら、その旨をお伝えいただくとありがたいなと思っております。

高齢者相談センターの方も、聞かれたら、そのようにお伝えいただければと思います。間違いなく配布されますから。

いずれにしても、まだまだ収束の目処は立っていないわけですが、収束しないということはないと思いますので、色々な努力をして、市を挙げて今、市民の皆さん方をお願いをしているという状況でございます。

さて、本日の本題の高齢者相談センターと地域密着型サービスでこ

野呂委員長

事務局、各高齢者  
相談センター

野呂委員長

ざいます。私は、高齢者支援というのは「3本の柱」だと思っています。1つは当然「市役所」、市が中心になって色々な施策を進めていくと。それと併せて、今日の議題になっている高齢者相談センターの皆さん方にも、「2つ目の柱」を担っていただきたい。最近認知度もだいぶ上がってきて、本当に様々な職種の専門職の方が支援をしていただいて、事業効果が上がってきていると聞いております。

そういう意味では、「市」、そしてもう一つが「高齢者相談センター」、そして3本目は「市民力」です。具体的に言えば、地域の皆さん方でお互いに支え合う組織である「ブロンズ会議」や「ふれあいサロン」などがあるわけですが、そういった「市民力」。この3本の柱で、これから加須市の高齢者施策を展開し、どこの地域に住んでも安心して暮らしていける加須市になればと思っています。そういう意味で、本日の高齢者相談センター運営委員会は、非常に大事な会だと考えております。

ぜひ委員の皆さん方にはご理解いただき、必要なことはここで問題提起しながら、高齢者相談センターの方もいらっしゃるわけですので、一緒になって、それぞれの地域において、支援を必要とされる方が1人として取り残されることのないような体制を構築していければと思っています。

来年度の運営方針や予算の関係など、これから事務局から説明させていただきますが、遠慮なくご意見を頂き、お互いに良い形で地域づくりを進めていくことができればと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

### 3-1 議事(1) 高齢者相談センター運営委員会

それでは、次第に従いまして、順次、進めさせていただきます。

はじめに、議事の(1)について事務局から説明をお願いします。

(資料により説明)

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質疑やご意見等がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いします。

資料1の運営方針(案)では、支援がやりやすくなるよう、これまで取り組んできたことを改めて明文化したということですね。特に多問題化していることを具体的に、ということで「ヤングケアラー」の問題、これは埼玉県で取組が行われていますし、それから「介護離職」の問題ですね。また、必要な関係部署との連携について、自立支援相談窓口、すくすく子育て相談室、北埼玉在宅医療連携室、北埼玉障がい者生活支援センター等の相談機関と連携していくということ。それから、消費者被害防止ネットワーク会議に参画していくことについて

大利根高齢者相談  
センターふれ愛の  
郷

野呂委員長

も明文化しているということでした。

資料3の各センターからの事業計画のポイントについて、重点項目が出されていましたが、第1圏域では、世帯数が多いということで、ダブルケア、ヤングケアラー、8050問題といった実態把握が非常に困難なので、色々な方と連携しながら現状の確認をしていこうということ。

第2圏域では、認知症に対する取組ということで、最初は「認知症で大変だからどうしよう」という発想が、「こういう人がいるからどうしよう」という風になんか変わってきているということ。地域の見守りという土壌がだんだん熟成されつつあるので、見守りの体制をより一層強化できる取組をしていきたいということ。

第3圏域では、ふれあいサロンがコロナの影響でなかなか開催できなかった中で要介護状態の方が増えたということが見られたと。ふれあいサロンが介護予防としての役割を担っていたということが図らずも確認できたということだと思いますが、そういう意味で「通いの場」の確保をしっかりしていきたいということ。

第4圏域では、「買い物難民」が多くいらっしゃるということが地域課題として上がっていく中で、移動スーパーがブロンズ会議の活動を通して動き出すことが、他の地区の活動にも生かせるのではないかとということ。

第5圏域では、アウトリーチをしながら課題を見つけていくということや、実際にシャトルバスを体験していただいて今後実際に使えるようにしていくということ。

第6圏域では、24箇所あるふれあいサロンのサポートをしていくということでした。第6圏域では、「チームオレンジ」の取組も挙がっていますが、その取組についてもう少し説明していただけますか。

認知症の人が地域で安心して暮らしていけるように、ご家族の力だけではなく、地域の方を巻き込んで横の繋がりを持って支えていくという中で、大利根地域では、1つの地区でチームオレンジの立ち上げをさせていただいているところです。

認知症サポーター養成講座の受講者などが中心となってチームを組んで、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援などの取組を行うことで、チームオレンジとして機能させるということを現在行っています。

今年度中に立ち上げる予定で、次年度はチームオレンジが機能できるように、勉強会や定例会を定期的に開催する予定です。地域を主役として取り組んでいく予定です。

ありがとうございます。

上野委員	<p>事業計画（案）についてご質問はありますか。</p> <p>ふれあいサロンの関係ですが、7、8年前に私たちの地域でも立ち上がりましたが、参加者の高齢化や、施設に入所したりお亡くなりになったことにより参加者数が減っています。新たな参加者を募ったり、担い手を育成するための研修を開いたりするなど、できることがあったら支援をしていただきたいと思います。</p> <p>また、取組の関係課ですが、いきいき健康長寿課は健康寿命の延伸という面を考えていると思いますが、いつまでも健康でいられるよう、将来の人生プランを見据えて、生涯学習課も巻き込んで取り組んでいってほしいと思います。</p>
事務局	<p>まず1点目のふれあいサロンの参加者が減ってきている点についてはご指摘のとおりです。コロナの影響がもちろん大きいわけですが、市では、それぞれのふれあいサロンを運営されている住民の代表者の方や、その活動を支援している介護予防サポーターの方を集めて、年に数回会議を開催しておりまして、それぞれのサロンにおける課題や今後の運営の仕方を高齢者相談センターも交えながら検討させていただいています。</p> <p>当然、皆さん年齢を重ねていきます。若い方が入ってこないと減ってしまいます。老人クラブの活動にも言えることですが、いかに魅力のある、皆さんが興味を持つような取組を作れるかというところが一つのキーなのかなと思っています。そこを皆さんと会議の中で見出して、いいものがあればそれを皆さんの地域で横展開していけるような形をとればと考えています。</p> <p>2点目の生涯学習課やいきいき健康長寿課との連携という部分ですが、フレイル予防や介護予防の内容は、かなり幅広くなっております。高齢介護課が主で行っている事業もちろんありますし、認知症予防や健康診断などはいきいき健康長寿課がメインで行っています。また、生涯学習課の高齢者学級、スポーツ振興課のグラウンド・ゴルフなども、介護予防やフレイル予防の取組の一つです。市民の皆さんへの啓発なども含め、今後もそれぞれの事業を行っている課が連携して取組を推進していきたいと考えています。</p>
野呂委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先日の地域ケア会議の中でも、食事に関するサポートについて、市の栄養士や保健師の方を交えた勉強会をみずほの里の中村さんがコーディネートしてくださったこともあったようなので、そういう取組を他の地域でもやっていただけるとよいのかなと思いました。</p> <p>ふれあいサロンが継続していくことは、地域を支えていく上で大切なポイントだと思いますので、良い質問を頂けてよかったと思います。</p>

金子委員

他にありますか。

先ほど、事業計画についてお聞きして大変な量があると感じました。高齢者相談センターの職員の数はそんなに多くはない中で、これだけの量の業務を行っていることに感心しています。

先ほど買い物の件も出ましたが、私が住んでいる種足の65歳以上の人たちにアンケートをとりました。その中で一番の問題であると感じたのは、「免許返納」です。高齢者が大きな事故を起こすと、すぐに免許返納とマスコミで大騒ぎをしています。では、免許を返納するとその人はどうなるのかといたら、自転車か徒歩しかなくなると。健康であれば自立して生活ができるわけですが、人にお世話にならなければいけない時期が来たら、誰が自分の面倒をみってくれるんだという声が非常に多かったんです。警察は、免許を返納したらその証拠となるものを与えますよという事業を行っていますが、交通弱者の人や生活に不便を感じている人に対する支援について、市として今後の見通しをどのように考えていますか。

また、デマンドバスについても、手続きが煩わしいです。あの手続きをもっと簡単にできる方法はないのかと思います。

野呂委員長

先ほどの買い物難民もそうですが、実際に免許を返納した後のことについては、市として色々取り組んでいると思いますが、改めて教えていただきたいということと、受診の問題等もそうですね。タクシーなどもあるわけですが、それも含めてどうでしょうか。

事務局

交通弱者の問題については、高齢者支援の中の課題の最たるものと認識しています。

お話にありましたが、加須市では、デマンドバスの増便や運行ルートの見直しを公共交通の担当課で随時行うなど、対策に取り組んでいるところです。

また、買い物の点については、移動スーパーを何とか普及させたいということで、令和3年度は補正予算を組みまして、移動スーパーを加須市で展開してくれる事業者の募集なども行いました。騎西地域では先駆的に始まるということで、そのような取組がこれから徐々に広がっていくと思っています。

また、医療機関の受診も大きな問題です。これについては、皆さんがかかりつけのお医者さんを持っておいただき、先生との間で関係を作っておいただく。自分がなかなか外来で受診することが難しくなったときに、往診等をしていただけるような関係づくりをしていくことも重要と考えます。これは行政や医療機関だけの問題ではなくて、患者さん側、市民の皆さんにご協力いただかなければならないところだと思います。今後の往診の体制がどうなっていくかというのは、市だけ



	<p>では申し上げられないところもありますが、今後は、そういった様々な方面から、交通弱者の方への対策を講じていく必要があると思っています。</p> <p>今の点は、福祉部門だけではなく色々な分野が関わっていきまして、高齢者を軸として考えたときに、市として総力を挙げて取り組んでいるところです。様々な手段を通じて、免許を返納した方や運転ができなくなってしまった方に対して、どのように支援をしていけばいいのかということを考えています。それは、総合振興計画や高齢者支援計画の中でも、色々な分野を通じて取り上げている課題で、それを実際に取り組めるものから取り組んでいるという段階です。</p> <p>交通弱者のことに限っては、買い物のバスツアーを組むなど、地域の中で支援が始まっているところもあります。</p> <p>市役所だけではなく、交通機関も含めて様々な方々と連携しながら取り組んでいかなければならない課題であると考えています。</p>
野呂委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>市としては、重要課題として取り組んでいる最中ということですが、地域から挙がっている声は切迫したものだと思いますので、今後積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>往診の件に関して、佐藤委員は何かありますか。</p> <p>北埼玉医師会では、往診をしてくれる先生の登録制度がありまして、診療の合間に往診が可能な先生を募っています。ただ、種足地区や北川辺地区もそうですが、他の市町村との隣接地域は、既存の医療機関で往診することが難しいところもありますし、実際に市民の方も、北埼玉の医療機関にかかっているというよりは、市外の医療機関にかかっている方もたくさんいらっしゃるって、そこをお繋ぎするのが難しいときもあります。</p> <p>ただ、在宅専門クリニックなども立ち上がってきていますので、往診の対応が必要になったときは、北埼玉在宅医療連携室にご相談いただければ、医療機関にお繋ぎするという役割ができます。その窓口も、高齢者相談センターになると思いますので、少し通院が難しくなったというときなど、高齢者相談センターに相談していただければ、そこから北埼玉在宅医療連携室に繋いでくれますので、心に留めていただければと思います。</p>
野呂委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>困ったときはまず、高齢者相談センターに相談していただければ、高齢者相談センターから北埼玉在宅医療連携室に情報提供があるということですので、活用していただければと思います。</p> <p>他にありますか。</p>

山崎委員

2点質問させていただきます。

家族に認知症の症状が現れた場合に、一番苦勞されるのは家族だと思います。外に出る行動等が始まると、家族では手に負えず、施設への入所に傾いていくことが事例として多いのではないかと思います。認知症の方を地域で支えるというのは非常に難しいことであり、今後、その前段の予防というものが何らかの形でできていくようであれば、それが地域で支えるということになると思いますが、チームオレンジの取組について、もう少し分かりやすく説明をお願いしたいというのが1点目です。

もう1点は、「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）」の講話を行うとありますが、「人生会議」という用語を初めて目にしたので、これについて説明をお願いします。

事務局

認知症の方とそのご家族など日常生活において困りごとを抱えている方々がいます。一方では、認知症サポーターとして地域のために活躍したいという思いを持っている方がいらっしゃいます。そうした中で、認知症サポーターのうち更なるスキルアップをしていただいた方と、困りごとのある認知症の方とその家族などをマッチングして、支え合いの仕組みとして動かしていこうというのが、チームオレンジの取組です。この取組を高齡者相談センターと市で連携して、これから立ち上げていこうと動いています。その中でも、大利根地域が今年度先駆的に立ち上げに向けて動いている状況です。令和5年度までに6つの日常生活圏域の全てで、少なくとも1チームずつチームオレンジを立ち上げるという目標で進めているところです。

また、人生会議につきましては、病院で最期を迎えたいのか、自宅で最期を迎えたいのか、延命治療を希望するのかなど、人生の最期をどのように迎えるかということ、ご家族やご友人など自分の大切な方と、今のうちから話し合っていきたいという取組です。加須市と北埼玉医師会が連携し、各地域で講座の開催を始めたところです。本日は、講師役として関わってくださっている佐藤委員さんが出席されていますので、補足の説明をお願いしたいと思います。

佐藤委員

まさにそのとおりで、今年度から北埼玉医師会では、医師の出前講座とともに私が、市内4箇所に出向いて講座を行っています。

人生の最終段階のことを考えてみようということなのですが、最期のことを考えるというよりは、最期に向けて、どう自分らしく生ききるかを考えるきっかけづくりになれば、ということで始めています。令和4年度は、ふれあいサロンなど小規模な場所に医師が出向くなど、もう少し回数を増やし、人生会議という言葉の普及を図っていきたいと考えています。

中田副委員長	医師だけではなく、もう少し色々な人たちが参加するような形を考えているのですか。
佐藤委員	ここに至るまでは、まず医療・介護関係者に人生会議を知ってもらうような活動が中心でしたが、今年度から、市民に向けた発信を始めたところで、最期をどうしたいかということよりは、私が大事にしてもらいたいことは、自分が何を大切に生きてきたのかということを周囲の大切な人たちと話し合っていただくことを目的に進めていきたいと思っています。
中田副委員長	すごく大切な項目の一つだと思います。そのように人間関係を繋いでいくことは大切ですし、そこからブロンズ会議など色々な面に発展していくかもしれません。お互いに繋がっていくといいですね。
佐藤委員	まずは、普段からかかりつけ医の先生と市民の方がそのような話をしていただけるように、第一歩として始めているところです。
山崎委員	人生の最期をどこまで選択できるのかということは、分かりにくいことです。自分がどういう老い方をしていくのか、認知症が出てきたら自分の判断はできなくなります。将来的にどこを目指していくのか、自分がどういう生活上の悩みを抱えているのか、そういう部分をどんどん聞き出していくような、皆で語り合いながらやり取りができる場をどのように作っていくのが喫緊の課題ではないかと思います。
佐藤委員	今年度、市内4箇所で行っている講座は、「これからに備えて、もしものときのために」ということで、フレイル予防と人生会議をテーマにしています。まさに山崎委員がおっしゃるとおりです。
中田副委員長	<p>「人生の最期」ということではなくて、自分としてこういう生き方をしたいという話の中で、相互に理解を深め、その人に合ったサービスを提供していくことに繋がるとよいと思います。</p> <p>山崎委員がおっしゃることはすごく大切なことで、今どうするのかというのが喫緊の問題だと思います。それに対して、色々な相談に乗ってあげることも含めた取組をしていくといいのではないかと思います。</p>
長谷川委員	そのようなことを考えて人に相談することは、本当に難しいと思います。個人情報の問題もありますし、個人的にはやりたくないと思います。
野呂委員長	<p>長谷川委員のように、考えたくない、他人に言いたくないというご意見も当然あると思います。ただ、そういうことを考えるきっかけを皆さんで作っていかうということです。徐々に自分の状態とマッチしてきたときに、相談してみようという気になるかどうかは、そのときの個人の考え方でいいわけです。</p> <p>本人が判断できなくなり、家族やそこに関わる人たちなど最終的に</p>

	<p>誰かが判断しなければならなくなったときのために、本人が言っていたことを記録としてノートに書いておきます。1回書いたことは、本人の気持ちの変化により途中で変更してもよくて、それもノートに書いていきます。例えばテレビを見ていたとき、大事な友人が亡くなってしまったとき、孫が生まれたときなど、色々な出来事によって気持ちが変わることはあるわけで、その都度気持ちを書き残していきます。そういう仕組みづくりを国は示し、市でも北埼玉医師会と連携して行っています。埼玉県医師会でも、「私の意思表示ノート」を作成しています。</p> <p>なぜこのようなことを考えることになったのかというと、高齢者がどんどん増えていき、生活していく中で自分は長生きしていいのだろうかという気持ちが生じたときに、長生きしていいんだということが認められる世の中になるために、人生会議という取組が出てきたのだと思います。</p> <p>自分はまだ必要ないということであればそれでよいと思います。ただ市としては、この取組をサポートしていこうということで、事業計画に掲載した高齢者相談センターもあるということです。</p> <p>この委員会で出た意見も参考にしてもらい、色々と煮詰めていってもらえればと思います。</p>
中田副委員長	
野呂委員長	<p>運営方針や予算案等については、頂いたご意見を踏まえて事務局で検討を加えて決定することとなっていますので、たくさんのご意見を頂き、よかったなと思います。</p> <p>それでは、議事の（１）については以上とし、次の議事に移りたいと思います。</p> <p>議事の（２）について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>３－２ 議事（２）地域密着型サービス運営委員会</b></p> <p>（資料により説明）</p>
野呂委員長	<p>ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質疑やご意見等がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは、最後に、次第の「４ その他」に移りたいと思います。事務局からお願いします。</p>
事務局	<p><b>４ その他</b></p> <p>高齢介護課長の山岸でございます。</p> <p>野呂委員長さんをはじめ、委員の皆様には、長引くコロナ禍にもかかわらず、今年度２回開催いたしました当委員会にご出席いただき、貴重なご意見をありがとうございました。頂きましたご意見は、今後の事業運営に反映させてまいりたいと存じますので、今後とも変わら</p>

	<p>ぬご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。</p> <p>また、令和4年度の当委員会の開催予定でございますが、例年同様、7月下旬から8月上旬にかけて、また、1月下旬から2月上旬にかけての、年2回の開催を予定しておりますので、高齢者相談センターの事業運営に対しまして、忌憚のないご意見を頂きますようお願い申し上げます。お礼とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
吉澤委員	<p>色々と参考になる意見を伺いましたので、それを踏まえて、計画どおり進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
野呂委員長	<p>たくさんのご意見を頂き、本当にありがとうございます。頂いた意見をぜひ次年度の計画等に反映させていただきながら、地域を支えるというところで、高齢者相談センターの運営が円滑に進められるように期待しています。</p>
山崎委員	<p>高齢者相談センターの認知度はいかななものかについてお聞きしたいです。</p> <p>私は地元で、65歳以上の高齢者が集えるような場を作れないものかということで、少しずつ取組を始めているところです。</p> <p>高齢者相談センターは、高齢者相談センターが中核となって様々な関係機関と連携を可能にできる、そういう可能性を大いに秘めていると思います。ですから、何らかの形でもう少し高齢者相談センターが地域の中で周知されるような工夫がほしいなという思いがあります。受け皿となるのは、高齢者施策の「3本の柱」の中の「市民力」だと市長様もおっしゃっていました。高齢者施策というものは、地域のコミュニティの再生の問題だと思います。どんどん増える一方の高齢者、地域はコロナ禍にあって、分断されていく側面ばかり強調されていくようなご時世です。そこをどのように、もう一度「公の力」と「地域の力」をもって、うまくお互いに生かしていけるのか、そういう意味でも、高齢者相談センターに大いに期待したいと思います。私たちの「地域の力」をもって、高齢者相談センターの人たちをうまく活用させていただきたいという思いがあります。そのためにも、もう少し高齢者相談センターの周知の工夫があるべきではないかと思います。</p>
事務局	<p>高齢者相談センターというと、介護が必要になって初めて知るという方がまだまだ多いかもしれませんが、高齢者相談センターの皆さんには、様々なことで現場に出て活動していただいています。</p> <p>具体的には、まず、地域ブロンズ会議の取組です。これは高齢者相談センターの職員がかなり地域に入って色々な活動をしています。また、「ヤングケアラー」という言葉をお聞きになったことがあると思いますが、高齢者と一緒にお住まいの若い方がいる世帯への支援も高齢者相談センターの職員が積極的に関わっています。さらに、新型コロ</p>

<p>中田副委員長</p>	<p>ナウウイルスワクチンの接種の予約支援の取組も高齢者相談センターの職員が中心となってやっています。このように、介護に関係しないことも含めて高齢者相談センターの職員が地域に出て活動をしていますので、こうした活動を通じて更に認知度を高めていきたいと思います。</p> <p>また、他にも何かありましたら、ご提案いただければと思います。</p> <p>例えば、高齢者相談センターが行っている取組について動画を作成して、市役所のモニターで宣伝するなど、目で見えて分かるようにしていけばいいのではないのでしょうか。シティプロモーション課などを巻き込んで進めていけばよいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>シティプロモーション課とも相談して、短編コマーシャルのようなものの作成を検討しています。準備が整い次第、実現したいと考えています。</p>
<p>野呂委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>認知度を上げるための工夫については、今後も委員の皆さんからご意見を頂ければと思います。</p> <p>長時間にわたり、熱心にご協議いただき、本当にありがとうございました。</p>
<p>中田副委員長</p>	<p>市長様が「3本の柱」とおっしゃったように、市役所、高齢者相談センター、ブロンズ会議などありますが、特に私が嬉しいと感じたのは、ブロンズ会議が非常に地域に密着してきているということです。この会議の成果でもあると考えています。</p> <p>また、フレイル予防についても、体操するだけではなくて、衣食住の「食について」のアドバイスもなさっているのは有意義なことだと考えます。最近、薬膳のような東洋医学的な考え方も出てきているので、今後は、そのような斬新さなど、「ニュー高齢者」という発想を取り入れても面白いのかなと感じました。</p> <p>また、「人は石垣、人は城」という言葉もありますが、一番大切なのは、「人」だと感じました。この委員会で、高齢者を中心に議論が行われているわけですが、一番大切なのは、その方たちをサポートし、少しでも良い方向へと努力している皆様方です。一生懸命取り組んでいただいています。これからも皆様が健康に留意し、地域や市民のためにがんばっていただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>5 閉会</b></p>
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和4年2月14日</p> <p style="text-align: right;">署名 _____</p>	